

図画工作部会

研究主題

みずみずしい感性と、しなやかな造形思考を求めて
～生き生きと思いを表現できる子どもの育成～

1 主題について

子どもが、自らつくりだす喜びを味わえるよう、個性を生かした多様で創造的な活動を促すとともに、創造活動の基礎的な能力を育成することが、図工教育に求められている。これらのことを踏まえ、主題を設定した。

2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容
4月14日	第1回総合研究会 ・研究テーマ確認 ・年間指導計画
10月5日	指導案検討会（東館小学校）
10月25日	第2回総合研究会（東館小学校） ・授業研究会 ・テーマ研究 ・実技研修会

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月25日（火） ・会 場 東館小学校
- ・単元名 1年「どうぶつむらのピクニック」
～あきばこをくっつけて〇〇〇にへんしん～（工作）
- ・授業者 三澤 章子 教諭

① 授業者から

- ・10月中旬に1時間目の授業を実施し、本時までに家庭の協力を得て、材料集めをしてきた。子どもたちは、材料集めを通して、本時の授業を楽しみにしている様子であった。
- ・ねらいに対する評価の規準は、〇〇をつくるという自分の設定に向かって、半分程度まで進められればよいと想定していた。本時だけで、このねらいを達成することは、難しいようであったが、子どもたちは途中で投げ出すことなく、集中して取り組んでいた。次時への意欲を高くしている様子も見られた。
- ・箱と箱の接着方法については、子どもによって様々であった。教師が以前に提示した方法を試したり、見た目の美しさを求めてプッシュボンドを使ったりする姿が見られた。
- ・大きい作品をつかってほしいという思いが教師の方にはあったが、小さいものをつくらうとする子どもがいた。授業者がねらうダイナミックな作品を子どもたちがつくるには、どのようなアドバイスをしていけばよかったのだろうか。

② 協 議

- ・導入部分で提示する動物の絵や、2週間にわたる材料集め、動物たちのための草原などの場の設定などによって、本時の子どもたちは最後まで集中して取り組むことができていた。
- ・草原の設定は、イメージをふくらませる上で有効であったが、活動の場所の中央部分に置くと、より多くの子どもが活用できるだろう。作品の大きさの基準にするように促すなどの活用方法もあるのではないだろうか。



【箱でどんな動物をつくらうかな】

- ・ 1時間目で、作品のおおよその大きさを確認するために、大きい作品と小さい作品を提示して、子どもたちが感覚的にどちらがよいか、考える方法もあったと思う。また、草原をもっと大きくすると、よりダイナミックな作品が生まれるかもしれない。
- ・ 接着方法が分かりやすく示されていることで、用途に応じて適切に接着方法を選び、丁寧に作業する様子が見られた。
- ・ 本時は「イメージ」「組合せ」「接着」の3つのポイントが設定されていたが、「組合せ」に焦点を絞って様々な組合せを試す時間にしてもよかったのではないだろうか。

(2) 指導助言（嘉藤 貴子 指導主事）

- ・ この題材は、子どもたちの材料集めから始まっている。材料集めにある程度の期間をもたせていたことで、家庭の協力を得る中で思いをふくらませながら進めることができていた。
- ・ 子どもたちは、集めた材料を使って、落ち着いて取り組むことができていた。人間関係も良好な様子であり、学習に対する意欲も高い。今後の学習も楽しみである。
- ・ 草原、豊富な材料、接着方法のヒントコーナーなど、指導者の場の設定にきめ細かな工夫が見られた。
- ・ 本時は、箱の形や大きさの特徴をどう生かすかということがねらいの一つである。箱をできるだけ解体せずにそのままの形や大きさを生かすことを確認することで、作品の大きさなどの問題もクリアできるだろう。
- ・ 発想・構想の力を本時で身に付けさせたいのであれば、振り返りの場面では、おもしろい組合せを見つけた子どもを紹介するなどねらいに合った振り返りが必要である。接着の技能を高め、見取るのは、次時以降でもよい。
- ・ 学び合いが生まれる場の設定を考えたい。隣の友達と作品を見合ったり、用具や材料を子どもと子どもの間に置いたりすることで、交流が生まれる。

(3) 実技研修会

- ・ 「箱の中のわたしの世界」という題材で、牛乳パックの中に綿やモール、自分の写真などを接着しながら入れて、自分の好きな空間をつくった。
- ・ 綿やモールなどの素材の生かし方、他の作品と見比べることの楽しさを再確認することができた。また、作者の思いや使う素材によって、作品の雰囲気違ってくるおもしろさを実感できた。



【先生方の作品】

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 材料集めの段階から子どもたちが主体的に取り組んでいることが確認できた。子どもの思いを十分に生かすために、色や形が多様な箱を準備できていてよかった。
- ・ 「接着コーナー」が設けられていたことで、子どもたちが必要な技能を自分で身に付けることのできる工夫がなされていた。

(2) 課題

- ・ 「めあて」と「振り返り」の整合性に課題があったのではないか。本時では、どんなことを育てたいかという視点を持ち、それに沿っためあての提示と振り返りがなされるようにしたい。
- ・ 場の設定に工夫が見られたが、「草原」のコーナーが十分に生かされていなかったのではないか。イメージを広げるために、途中で作品を置いてみるなどすればよかったのではないか。